

2021～2022年度

国際ロータリー会長 シェカール・メータ

2560地区ガバナー 高尾 茂典

高田ロータリー会長 中田 正

幹事 箕輪 賢一

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号

TEL (025)526-3288 FAX (025)526-3534

メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp

例会場：デュオ・セレッソ TEL (025)526-3111

広報・会報・雑誌委員会：

齋藤祐介・星 則雄・西條英夫・猪股耐真男・鈴木陽一

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

ロータリーを学び、
ロータリーを広げよう



高田ロータリークラブ
今年のスローガン

利他の心をもって、
超我の奉仕を

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

第 11 回例会 10 月 1 日(金)

No.10

会長挨拶

●中田 正

本日 10 月 1 日 0 時をもって、ようやく「緊急事態宣言」と「まん延防止等重点措置」が全国において全面解除されました。全国で解除されるのは 4 月 4 日以来、約半年ぶりです。

本当にここまで到達するのに、多くの行動を制限され、また、ビジネスにおいても大変な思いをされた方も多いと思います。しかしながら、まだウイルスは私たちの周りにいます。感染対策しながら、日常生活を取り戻していければと思います。

本日時点で、日本の総人口の約 6 割 7,500 万人の方が 2 回のワクチン接種を終えたそうです。そして約 7 割の 8,900 万人の方が 1 回目のワクチン接種を終えたそうです。人流が目に見えて減ってない中でこれだけ急に感染者数が減るのは、ワクチンの力はすごいと改めて感じました。

このような環境になり、ようやく来週は夜例会を開催できます。月見の会を長養館において感染対策を十分におこない、開催いたします。久しぶりの夜例会であり、皆様から会費は徴収いたしません。より多くの方にご参加いただければと思います。

最後になりますが、青少年奉仕委員長の高谷川さんが本日付で新潟支店へ異動になりました。後任の方にはご入会いただけるとの事です。

これに伴い、青少年奉仕委員長ならびに理事が空席となりましたが、新たに青少年奉仕委員長ならびに理事に、細野仁さんにご就任いただくことを先程開催された理事会で承認されました。正式な承認は臨時総会での承認を受けてとなります。細野さんよろしく願いいたします。

本日の卓話は会員卓話で米山奨学委員長の吉田巧さんから、「米山奨学の活動成果と寄付の大切さ」と題してお話しいただきます。

出席報告

96.15%

メイクアップ

石黒孝良君 (9/27 高田東 RC)

ビ ジ タ ー

草野健斗君 (高田 RAC)

橋本久美子様 (石黒孝良会員ご同伴者)

お客様スピーチ



草野健斗君 (高田 RAC) :

50 周年記念事業報告と御礼、
50 周年記念式典登録のお願い

委員会報告

出席ニコニコ BOX

遠藤 巖君：①私は高田ロータリークラブに
1981 年 10 月 2 日に入会させて頂きました。

明日10月2日で満40年になります。40年の長きに渡り、大勢の皆様へ御指導、御交誼を賜りました。心から感謝申し上げます。そしてまだまだ元気です。今後共変わらぬ御交誼のほど宜しくお願い致します。

②先日23日、秋分の日、当クラブゴルフ同好会第20回ゴルフコンペを赤倉ゴルフクラブで大勢の皆様の参加を頂き開催する事が出来ました。そして又、好天と良きパートナーに恵まれ、優勝することが出来ました。ありがとうございました。

齋藤尚明君：お手元にDMハガキを配らせて頂きましたが、10/20～10/26新潟伊勢丹にて個展を開催致します。よろしくお願いします。

橋詰敏一君：①無事に令和3年の収穫が完了しました。コシヒカリ一等の特別米をご賞味ください。

②先日、第20回ゴルフ同好会に初参加させていただきました。皆さんの倍振らせていただきました。

会員増強委員会 例会同伴者申込のお願い

親睦委員会 10月のお誕生日各お祝い



会員インフォメーション

石黒孝良君：「旅鉄Biz004 えちごトキめき鉄道の挑戦」刊行のご案内

神田和明君：10/2.3 岩の原ワイナリー収穫祭 2021のご案内

齋藤尚明君：10/20～10/26 作陶展のご案内

幹事報告

配布物：週報No.9、米山奨学豆辞典、例会同伴者申込のお願い、ロータリーの友10月号

報告：10月のロータリーレート112円/\$
次週10/8はお月見例会です

会員卓話

米山奨学事業の活動成果と寄付について

米山奨学委員長 吉田 巧君



米山記念奨学事業の活動成果を実感していただくため、米山奨学生OBのビデオメッセージをご覧いただきました。奨学生OBのチャンティフォンさん（ベトナム人2017年～2019年・スポンサークラブ：新潟北RC）は、現在母国に帰国し、パナソニックアプライアンス社に勤務し、工場長の秘書兼通訳として活躍されています。日本に滞在していたときは、ロータリアンとともに他国の学生とも異文化交流を積極的に行い、また、地元産業等への研修も行うなど素晴らしい知識と機会を得ることができたと大変感謝をしております。今後も日本との平和の架け橋になれるよう取り組んでいきたいとも述べられていました。

さて、彼女のような外国人留学生の方々を支援しているこの事業は、運営の大半をロータリアンの皆様からの寄付金によって賄われています。地区の年間目標寄付金額はお一人2万円とされておりますが、近年の寄付金は残念ながらやや減少で推移しています。

卓話ではGDPに対する寄付金率の国際的な比較等について検証しましたが、日本の寄付に対する意識は他国に比べて低い状況です。日本は寄付の文化がなく、意識が乏しいとも言われますが、旧来から日本には寄付を表す沢山の言葉が存在します。言葉があるということは文化もあると言えます。戦後から経済発展を遂げてきた我が国は経済の合理的な価値観が強まり、寄付の大切さを少し置き去りにしてきてしまったかもしれません。

国際的な組織である我々ロータリークラブが率先して、社会をより良い形に導く寄付を推進していくことが必要と感じます。

米山奨学事業の使命は国際平和であり、これは税金による防衛等だけではなし得ません。60年以上も紡いできたこの事業は、昨今の国際情勢の安定等に必ずや寄与するものと思います。皆様にはこの点をご理解頂き、今後も温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

